

### 御堂筋

あるご門徒さんの法事でお話をしました。「北御堂（西本願寺津村別院）と南御堂（東本願寺難波別院）を結ぶから御堂筋というのです」というと「あつ、そうですか」と驚きの声が上がりました。

五木寛之氏の「他力」という本にこう書かれています。大阪の基盤は石山御坊（後に大阪城になる）の寺内町で、道修町・船場も寺内町にあった繊維問屋や薬品問屋が発展したといわれています。御堂の鐘の音が聞こえるところに本店を持ちたいという先祖伝来の夢を持った近江の門徒（浄土真宗の信者）商人たちが大阪に出てきて、やがて丸紅とか伊藤藤忠といった商社もやってきます。さらに繊維とか薬品以外のいろんな企業が集まって大阪の経済を支えました。つまり御堂筋は信仰によって支えられた街だったのです。

大阪商人はよく「儲かりまっか」「まあ、ぼちぼちでんな」などという挨拶を交わすと言われます。しかし昔は「儲かりまっか」と聞かれると「おかげさんで」と必ず言ったそうです。「おかげさんで」とは仏さまのご加護によってなんとか生きていけることを（お陰）と感じて、その（お陰）を感謝する思想でしょう。そう考えると、大阪商人はじつは根のところに非常に宗教的な心をもった人たちであると言われています。「させて頂きます」も「お陰さま」と感じる浄土真宗から教えから生まれたというのが司馬遼太郎さんの説です。『俺が金を儲けてどこが悪いんだよ!』という言葉をいう方がいました。お金を儲けるためには何をしてもよいという考えが、やがて自分自身の大事な基盤を見失ってしまうのではないのでしょうか。私は生きていくのではないのです。回りのいろいろな



本願寺津村別院（北御堂）西本願寺（浄土真宗本願寺派）の別院で、通称「北御堂」と親しまれている。本願寺第8代宗主蓮如上人によって、大阪の地に坊舎（現在の大阪城公園内）が建立された。後の石山本願寺である。石山戦争の後、本願寺は各地に寺基を移転。1591年、本願寺が京都（現在の地）に移転後、大阪の門信徒たちは、天満に近い「楼の岸」に坊舎を建立。1597年に現在の地（津村）に移転。大阪のメインストリート「御堂筋」は、北御堂（津村別院）と南御堂（真宗大谷派難波別院）を結ぶことから名づけられたともいわれる。



南御堂（難波別院大谷派）大阪市中央区久太郎町4

一遍 一遍しらず。紫雲の事は紫雲に問え、花の事は花に問え。

### わんさん葬改ページ

日出店：速見郡日出町川崎会下(空港道路入口) TEL (0977) 72-6415  
 三重店：豊後大野市三重町赤嶺1041(トライアル横) TEL (0974) 22-3301  
 森町店：大分市横尾2733-1(大東中学入口) TEL (097) 524-6525

# さんわ便り

第158号 所部 行報 さんわグループ 編集 大分市

## 目覚めの宗教

中央仏教学院で教えを受けた白川晴顕（はるあき）先生が、「浄土真宗は目覚めの宗教」と書かれているものを拝見しました。

その文章の途中からですが、仏教は釈尊によって開かれた教えです。そして、釈尊のことを「覚者」と呼ぶように、仏教は「目覚め」の宗教であるというところに大きな特色があります。浄土真宗の教えも、親鸞聖人が『正像末和讃』に

「信心の智慧」、すなわち信心によって如来の智慧が与えられる「目覚め」の宗教です。「目覚め」とは、今まで当たり前前、正しいと思っていたことが「当たり前」ではなかった、間違いであった」と、自分の非に気づかされることです。当たり前前、正しいと思っていたことというのは、煩惱を通じた見方でもあります。これに対して「目覚め」というのは、煩惱を通さない見方に照らされて、何が真実かということに気づかされていくということです。わかり易くいいますと、仏さまのものの見方が知らされていくなかに、それまで正しいとおもっていたことの違いに気づか

「目覚め」ということではないかと思えます。人一倍仕事ができ、頭脳が明晰で、社会的に立派な地位に在ることを誇りにしている人ほど、頭脳や判断力が衰えていくことや、地位がなくなっていくことがつらいといえるでしょう。財産を殖やすことを最優先に考えている人ほど、財産が目減りしていくことに耐えられないでしょう。生きていくときだけがすべてであって、死ぬことは惨めでありダメになることであると思っている人ほど、迎える死は最も恐いものになるでしょう。

強ければ強いほど、逆にその反動も大きくなっていきます。自分が重い病気になれば、それを劣ったものとして斥け、優れた価値のある健康を取り戻したいという願いを強く持つのが平素の心です。しかし、いくら願っても思い通りに取り戻せないことも現実が教えてくれます。したがって、物事に対して優劣・善悪の価値や、自分にとっての都合しか考えない損得勘定を最優先するものの見方は、思い通りにならなければ、必ずその結果として苦痛だけが残ります。目覚めは、私達の理性、知性、分別、煩惱を通さない仏さまのものの見方によって、優劣・善悪・損得勘定勝ち、負け、の見方がいか

お念仏は、私達が仏様の光に照らされて、本当の自分自身のこと目覚めていく、働きがあるのです。私達は表面的な姿は、鏡を見れば見えますが、心はなかなか見えません。そんな私達に、お念仏は、私を照らし、写してくれて、私自身に目覚めさせてくれるのです。

第586回 目覚めの宗教 平成16年 4月15日

妙念寺電話サービスより 御電話ありがとうございます。

